

## 令和 6 年度バス事業における評価結果について

評価指標 及び目標値	令和 5 年度実績 (調査結果)	令和 6 年度実績 (調査結果)	評価結果・評価基準 からの方向性	備考 (見直し策の具 体例)
1 便あたりの平均 利用者数 (基本路線 9 人 以上、乗継支線 2 人 以上)	1 便あたり平均利用 者数 基本路線 9. 5 人 乗継支線 1. 4 人	1 便あたり平均利用 者数 基本路線 8. 8 人 乗継支線 1. 4 人	○未達成 基本路線については 前年から 0. 7 人減 少している。 乗継支線については 前年度との増減はな く、いずれも目標値 に至らなかった。	9 月末の人口を 5 年度 と比較すると、326 人減少している。中 でも、45～49 歳と 70 ～74 歳の人口が大き く減少している。利 用者が多い年代の人 口減少が影響したと 考えられる。R7 年 3 月から交通系 IC カ ードが利用でき、利 用者も増加傾向とな っている。
収支率 (基本路線 3 0 % 以上)	基本路線収支率 17. 2% 但し、無料措置が無 ければ 22. 3%	基本路線収支率 12. 7% 但し、無料措置が無 ければ 15. 8%	○未達成 乗車人数の減少に加 え、委託料など運行 経費が増加したこと により、収支率が減 少した。	回数券購入者が増加 している。R5 年 10 月 から通勤通学用定期 券を、R7 年 3 月から 交通系 IC カードを導 入し利用環境づくり を図った。通勤通学 による IC 利用者が増 加している。
満足度 (1 年目 50% 以 上、2 年目以降 60% 以上) 「満足」及び「や や満足」の合計値 の割合をいう。	令和 5 年度では、利 用者実態調査を実施 せず。	R 6 年 1 1 月住民アン ケート調査結果 ○運行時間帯 32. 2% ○バス停の数と位置 58. 8% ○バス運賃 83. 7% ○運転手マナー 76. 1%  R 7 年 3 月利用者実態 調査結果 ○運行ダイヤ 48. 8% ○基本路線 78. 3% ○乗継支線 40. 1% ○バス運賃 91. 2% ○運転士マナー 93. 5%	○未達成 多くの方がバスを 利用したことがある と回答。しかし、乗 継支線の利用者は数 パーセントである。 通勤や買い物に利用 される方が多い。 バスの運行時間帯 やダイヤについて、 不満・やや不満の割 合が多い。 運転士のマナーに ついては 4 年度より も向上している。	バスが日常生活にお いて移動手段として 定着していると考え られる。 しかし、電車との 連絡や運行時間帯な どの満足度は依然と して低いことから、 ダイヤ改正などによ り引き続き利便性の 向上を図っていく。
利便性 (1 年目 50% 以 上、2 年目以降 60% 以上) 外出機会が「増 加」及び「やや増 加」した住民の割 合をいう。		R 6 年 1 1 月住民アン ケート調査結果 ○バス利用者 59% ○外出機会 増えた 28. 7% 変わらない 70. 3% ○利用目的 通勤・通学や買物・ 飲食が上位を占める  R 7 年 3 月利用者実態 調査結果 ○移動交通手段ではバ スが半数以上 ○利用目的 通勤、買物が約 7 割 を占める	バスが移動手段と して半数を占めてい る。バスがあること で外出機会が増えた 割合は約 29% で、バ スの有無が外出につ ながっている。	